常照
第848号

親鸞聖人は阿弥陀如来の化身のわけ

親鸞聖人は、阿弥陀如来あるいは観音菩薩の化身（けしん）として、姿を変えてこの世に現れ、我等生きとし生きる衆生（しゅじょう）を救うお方であります。

この事に関する言い伝えや書物等、数多ある中で、その一例を、お示ししたいと思います。

それは、覚如（かくにょ）の「御伝鈔（ごでんしょう）」に残る逸話です。

御弟子入西房（にゅうさいぼう）は、親鸞聖人の真影（お姿）をお写しいたしたいという願いを持っていたところ、聖人は、その志を嘉（よみ）して、仰いますに、「定禅法橋（じょうぜんほうきょう）に写させなさい」と。入西房、大いに喜んで、その法橋をお召しになります。定禅は時をおかずに参りました。参るや否や、聖人の尊いお顔に向い申し上げて言うには、「ある夜、類いない不思議な夢を見たのです。その夢の中にて拝見申し上げました聖僧のお顔お姿は、向い申し上げている親鸞様のお顔と少しも違わないのです」と言って、思わず喜ぶと驚きの様子で、自らその夢について語ります。「貴い僧二人が入って来ます。一人の僧の仰るには、「（もう一人の）仏の化身の僧は真影を写させたいというお志をお持ちです。定禅殿、どうかお願い致します」と彼は質問します。「この化仏（けぶつ）の僧は、どなたでしょうか。」先程の僧の申すには、「善光寺の本願の御房（ごぼう）、阿弥陀如来そのお方です」と。

その時、定禅合掌し跪（ひざまず）いて、夢のうちで思うには、それではやはり、生身の弥陀如来であったと知って、身の毛も逆立って、ぞっとした後、彼は恭々（うやうや）しく尊敬の意を表しました。こうして夢覚め終わりました。それなのに、今この貴院に参りまして、親鸞様の尊いお姿を拝見いたしますに、夢の中に現れました、阿弥陀如来の化身の聖僧（しょうそう）と少しも違いません」と言って、心からの喜びに涙を流します。

これは、親鸞聖人は、阿弥陀如来の化身である一つの証であります。この夢のことは、阿弥陀如来の本願力によるもので、これを還相回向と申します。

還相回向（げんそうえこう）については後程触れます。

如来の二つの回向

日頃、お勤めする『正信偈（しょうしんげ）』にある「往還回向由他力（おうげんえこうゆたりき）」の意味について調べてみましょう。

阿弥陀如来の本願力には二種類あります。一つは、往相回向（おうそうえこう）、二つは、還相回向です。

往相回向とは、弥陀ご自身の本願成就（ほんがんじょうじゅ）の為に、穢土（えど）の我等凡夫（ぼんぶ）を浄土に往生せしめるのに振り向ける力です。

親鸞聖人の仰せには、「弥陀に出会うことのない身となれば、迷いの世界を転々として苦海（くかい）に沈めば、どうすることも出来ないのです。この世界が出来てから続いている迷いの苦しみを捨てて、この上ない幸せを頂こうという強い願いの自分にとって、弥陀回向のご恩は、感謝してもしきれないことであります。

心より南無阿弥陀仏とお念仏を称えたならば、必ず浄土往生かなう弥陀の

本願力は、人間の思いを遥かに超えたものであり、その御恩は広大であります。これを往相の回向と申します。」と讃歎（さんたん）されております。

『仏説無量寿経（ぶっせつむりょうじゅきょう）』に諸々の衆生、その名号（みょうごう）を聞きて信心歓喜（しんじんかんぎ）せんこと乃至一念（ないしいちねん）せんとあります。これを詳しく述べると次の様になります。

この世には二種の衆生（生きとし生きるもの）がおります。

一つには名号（南無阿弥陀仏）を聞いたことのない衆生。

二つには、名号（以下念仏）を聞いたことのある衆生（以下人）。

次に、念仏を聞いたことのある人に二種あります。

一つには、念仏を称えたことのない人。

二つには、念仏を称えたことのある人。

次に、念仏を称えたことのある人に二種あります。

一つには、名号の意味も知らずに、口先だけで念仏を称える人。

二つには、名号の意味を知って、心からの歓喜をもって念仏を称える人であります。

この人を正定聚（しょうじょうじゅ）と申し、必ず浄土に往生する人であります。以上が本願力の往相回向であります。

もう一つの還相回向

往相回向の本願力によって、浄土往生の身となります。浄土の仏たちは、弥陀如来の他に、釈迦如来と十方諸仏（じっぽうしょぶつ）であります。弥陀釈迦はもとより諸仏は、還相の本願力回向によりこの世に生まれることとなります。弥陀の大いなる慈（いつく）しみの心は、念仏往生の願いにより、

我等凡夫を浄土往生の結果を得さしめることであります。一方、いまだ弥陀の願いを知らずに苦しんでいる人の存在を大いに悲しまれる御心により、浄土の諸仏を、応化身（又は化身）せしめて、この世に遣わすのであります。その目的は、利他教化（りたきょうけ）、弥陀の本願念仏のみ教えを仏縁薄い人に勧めることであり、応化身は、ついには次の世には浄土に生まれる※一生補処（いっしょうふしょ）の菩薩となるのです。※唯一度だけこの生死（煩悩）の世界に現われ、次の世には必ず浄土に生まれる菩薩として最高の位を一生補処という。

終わりに、我ら念仏者が心得るべき要は、縁ある人々に、抜苦与楽（ばっくよらく）する弥陀大慈悲心（みだいじひしん）の存在と浄土往生の道を教え勧めることであるかと思います。

九月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期　九月七日(土)～十一日(水)
兵庫教区 神戸中組 徳本寺
講師　津守秀憲 師

○後期　九月十三日(金)～十六日(月)
山陰教区 千須賀組 永照寺
講師　吉川恭順 師

○秋季彼岸会布教
九月二十日(金)～二十二日(日)
北海道教区 胆振組 真宗寺
講師　朝倉恵昌 師

○場所　小樽別院内
○時間　午後二時(法要終了後)～午後三時半
○浄土真宗のみ教えについて布教使のご法話を頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

九月二十二日(日)は秋季彼岸会に御中日にあたりますので月忌参詣はお休みさせて頂きます。どうぞお寺にお参りください。

発行所
〒047-0017
小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話（〇一三四）二二一〇七四四番
FAX　二九一四〇八〇番
テレホン法話　二七一一六一六番